

### **3. 将来都市構造 ～これからの都市づくりの骨格となるものを表現すると？～**

「多世代が共生できる住みたい、住み続けたいまち」の実現に向けて、北部丘陵、農地、河川や海岸等のみどりの保全・整備をめざします。また、都市機能を支える幹線道路網の整備を推進するとともに、茅ヶ崎駅をはじめとする鉄道駅を中心とした都市拠点、生活・防災機能を持つ拠点、海岸や緑地などの豊かな自然・景観を活かした交流拠点、景観拠点の形成をめざします。

#### **(1) 水とみどりのつながりの形成**

海岸、河川や丘陵は、本市の都市イメージを形成する代表的な自然資源及び景観資源となっています。

そこで、海岸や河川、北部丘陵の南面に広がる斜面緑地を「水とみどりのつながり」として形成し、豊かな自然や魅力ある景観の保全・整備をめざします。また、「水とみどりのつながり」を中心として生態多様性を保全し、豊かな自然に恵まれた都市づくりをめざします。

#### **(2) 幹線道路網の整備と歩行者に配慮した交通体系の形成**

国道 1 号を中心として形成されてきた市街地構成や幹線道路網を考慮し、東西方向及び南北方向の幹線道路網を、格子型に結び、骨格道路として形成をめざします。広域的に都市間を連絡する国道 134 号は、柳島向河原地区などの整備や中海岸漁港地区、ヘッドランド周辺の交流を育む場であることから、「広域交流軸」として位置づけます。

特に環状道路の整備を進め、茅ヶ崎駅周辺への通過交通の削減、人にやさしく環境に配慮した都市づくりを進めるとともに、歩行者や自転車を中心とした交通体系への転換をめざします。

#### **(3) 都市拠点と生活防災機能を持つ拠点、交流拠点、景観拠点の形成**

茅ヶ崎駅周辺、辻堂駅西口周辺及び香川駅周辺については、「都市拠点」として位置づけ、これまでの都市づくりを促進します。さらに、浜見平地区においては、地域の「生活・防災の機能を持つ拠点」として位置づけ機能を拡充していきます。

また、自然環境や歴史的資源の保全を含め、人と人との交流を育むポイントについては「交流拠点」として位置づけるとともに、商業・業務・サービス機能や行政機能の集積がみられ、特に景観形成を図るポイントについては「景観拠点」として位置づけます。

#### **(4) 地区特性に配慮したゾーンの形成**

茅ヶ崎駅周辺や辻堂駅西口周辺を中心とする市街地周辺については、「商業・業務系ゾーン」として、商業・業務・サービスなどの都市機能の集積を図るとともに、周辺に広がる市街地については、地区の特性にも配慮しながら、「住居系ゾーン」「住工調和ゾーン」「工業系ゾーン」として、土地利用を維持し良好な市街地の形成をめざします。

また、主要な公園や緑地及び北部丘陵については、「緑地・公園ゾーン」として豊かな緑地環境の保全を図ります。さらに、農地が広がる地区については、「農地・集落ゾーン」として地域環境の保全・整備をめざします。

## 将来都市構造図(案)

凡	例
商業・業務系ゾーン	都市拠点
複合利用系ゾーン	生活・防災拠点
住居系ゾーン	交流拠点
住工調和ゾーン	景観拠点
工業系ゾーン	河川
緑地・公園ゾーン	水とみどりのつながり
農地・集落ゾーン	広域交流軸
鉄道路線	
自動車専用道路	
幹線道路	
幹線道路(計画・構想)	
環状道路	

